ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

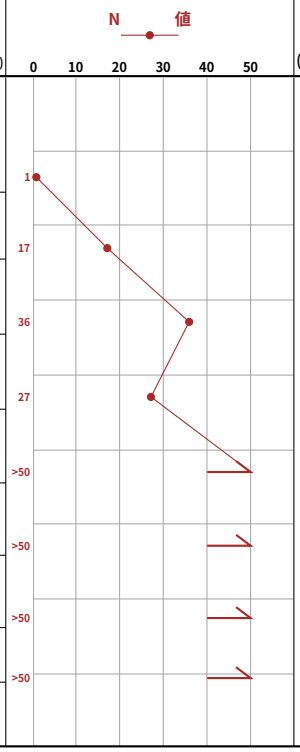
シートNO.

ボーリング名	B-1	調査位置				北　緯	36 ° 33 ' 41.7700 "
発注機関	栃木県　宇都宮土木事務所			調査期間	2008-09-05 ～ 2008-09-08	東　経	139 ° 49 ' 55.2900 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	119.18 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 25.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	10.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	117.38	1.80	1.80		盛土 (BS)	暗灰	中ぐらい		φ10～30mmの礫を混じるシルト系土を主に、ロームを塊状～斑状に含む。 1.0m以深、含水やや上位で軟らかく、φ2～5mmの細礫を全体に含み、灰褐色の粘土塊(φ10mm位)をも斑状に混じる。		09/08 0.75 09/05 1.60
	111.06	6.32	8.12		粘土混り砂礫 (GS-C)	茶灰	密な 中ぐらい 非常に密な		φ10～30mmの円・亜円礫を主体として、コア長5cm程度(推定φ100～150mm位)の玉石を混在する。 マトリックスは多くの細粒土分と中～粗砂から成り、礫間を密に充填する。自立性に優れ、孔壁は安定している。特に上部1m間への細粒土分含有が顕著。 4.5～4.8mにかけて、中～粗砂分が多く目立ち、幾分かルーズ。 5～7mにかけて、部分的に細粒土分の減少箇所があり、若干の崩壊が認められる。 7m以深、φ30～50mmの大礫が所々に見られる。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1			1／40	1
1.55					
2.15	4	8	5	17／30	17
2.45					
3.15	9	11	16	36／30	36
3.45					
4.15	8	10	9	27／30	27
4.45					
5.15	12	13	25／9	50／29	>50
5.44					
6.15	23	16	11／6	50／26	>50
6.41					
7.15	17	23	10／4	50／24	>50
7.39					
8.00	37	13／2		50／12	>50
8.12					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						09/05
						09/06
						09/08